新板

完夢問

全

帝國圖書館藏
へ13
2132
12

加藤

加藤文庫

2132
12

序

紀南子完学りんを著して雛妓よりを
びゝん雛妓是をしりさして突飛して
遊る書肆まるうろ抱て奏し
剞劂氏これを側より彫刻さの序を

うけと年を来くせぐむ其者年紀乃
雲のごとき書まきて起雲うく
筆とハ探ハとつくしどもどく蒐集て
憚ことしてびくく瞳をだ決めてう
くいうしてやもうくせもうるん乃

如者が御記らうとちよくら書
うまくかかれ序を
例埜　外惣子

經濟學部

爰塙

秩都　紀南子著

此ごろ此里の来ぬを尋るに師辺ハ家ふさ
武蔵野ふ[illegible]ふかうらけて絶万ふく平蛙の
墓ふ旅人の足の小休屋さしもゆやしの
葉のまろ寝やうく無新ゆ[illegible]ふよつて
四ツ家の里とハ名づけ[illegible]ぞ或ハ里人ぶらと
川へせんくよりろ[illegible]ゆまりのろ[illegible]へて日が

芸さうのつぎやを水鹿よう考うを放てる一
物をこそ〳〵とて舟に乗て出れば乃
むをんめまさてこそおむをころぐ〳〵くらき
闇路を苦もるく哀り舟をあでき見れば
つぎやけむ自然ようごき一人の女と化し
仙家の旅人をとむ人〳〵これを見付ふけ
女をと恵ちふきれば世上てよう〳〵やしの女をさ

〳〵おきいて所八武蔵の多摩郡川と
別玉川とふむし天人けれよ分かもあく天
ぐりてこの川あの清きよめでと行る汀よ玉子を
うめこれ玉川よそ考えしむ人間色を捨ひ
一後むをの光一面尺〳〵ぐさ〳〵よ形清も志
ぎれハるようるやそのを玉子形恵いづこと
考れざれハ恵形の石たも伝うセん〳〵自宮殿の

白衣をとりぐ〜人をたのんでぞちらし笛
ひちりき〜も奏たしやけをおこして世界へ
七宝充満の宴をかしをもむぐるひの唱鬨く
七月八月と月をあつ志きりふ天を恵しう異へ
天の羽衣とりおさんとむおさん用をしてそうれば
俵うらう金ハ一生白そのひの利ハまさ米中月家
厩のうの白衣ハすくやおびき立面をあくで
ぐ〜どんと向きれ〜ぐれハ仕板もかつぎれば
むぎんや羽衣ぐれまりうりそやけとたれもく
里人をれうて見れと見ぐ身をとり志ぐ一十
万年の年幸をいれて深ハうそる河井やけ
羽衣のあり〜ま流の所とハ名づけ〜石彼
五人まうひりあ〜し簫ひちりきをとり
出して里人を吹りれぐ志者を志たひて

ゆまさの天人吹笈毎よあまくだれば浴室を
とめ玉て形をあらべ一旅義瓦へ[illegible]こくてら
ちてくへるさてこそ者ハ吳秀ケ下群
集をあして玉へとくもれもあらるれも
四くして界の大通大ぞまぞくまく天
女のよ能よくら名ばけく有頂天道ふ
おち玉

里ヲかアよヲひり[illegible]すイ雷尾ぞやア延ら
[illegible]尾ユレハ女有先生ふ玉[illegible]ハテ陽くしひ
野面じやよるよ[illegible]ての野面がきらいと[illegible]さる
そくづくテ仆玉[illegible]仆ふと宮るひのて不も[illegible]さ
[illegible]玉仕玉よ茶尾くづく園の夜の間下玉ア玉へ
どもへぐらへて[illegible]とけ宮るくつて玉人ハ
もとんざ玉へりのよ茶尾ようくつちやけち

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八やゆんべハすゝぬけてさる 八 百姓おつゝどゆア
福へうまめいりの福へ念仏講をとるゆかいつゆで
ゆしていゝまるりんぐゆんびやゝ遠ゝ乃市ぐ
とけくいつてのそれゝゝ四尾のだいゝア異へいか
いぢめてやつてよきゝつゆ福へうま大根をとる
ゆゝゝ女の腕よゝ 巳 福へ戒名をナ七八ゐつて
いやゝぐるゝゝ ちんしぐかゝゝぬのてやつゝゝゆつ
おゝつゝゝんなりゝ死んて今生きゝ居ち
ロゼんゆ福へぬゝゝゝよおそゝでおれがけごら
ゐゝゝそのゐゝばゝをゝニ人へ乃ゝしてむてゝよ
いびつゝゝゝれゝゝゝゐらゝゝぬゝゝゝ 松
おそゝゝゝいゝ 八 そゝでおれがそゝんぐ異へ
ゆを言てゝよ 松 そゝりやアおりゝ
ぎゝゝつゝのゝ 八 きゝつゝ百へ夜ゝゝ汁を

十四文字ひつくつてむしやうくと法つ法ひ
うきうきうぬうくふハナハちよ字をかへま
ぐうくやうよ五つう雲をいれやうくいやアかる
うちうアア死人めくくいつ一ちよ五つうれちやア
てへきぐうう光明丹をいれて逆修よ立てよくく
いつくよ 松 ちくく 八 そうでぐてれつめかぬろ
しやアぐうよやアうちう腕ぐうくてらんき

場じやアのざんせ猫くとまきつつきてろつ
きやアぐうくちやアうぐちのくうつて合ぐや
して所やきうく大蛇の出るやうおいをみくべ
ぬのくうちよそれでもないつが巻中もでうせい
うくい首中ぐ今よこぐいうくつてみうねへ
松 そして言葉おうちうくしよう 武鬼 形文長い長い和の
度術ぐ少雪 形鬼 イヤ 墨年降雪の長い年で

此者ハ其頃ハ新吉原ニ出居候ヲ青山ヘ
ちいおさん 武九 モノ公よハ色まで いづくにかさ
そなる 武九 イヤ 玉城と申 侭家で明石と申
りをハ、ゝ 武九 イカニモ〳〵 義経ハ九郎義経
及ぶ さ就中ちのうち九せ大阪をいろ〳〵記
侭乳隨読よ中 一図と申 一堀と申いろを
げよりざる 武九 イヤ 左程不遜よりて此ざる抜の
ゝ 金銀を塵芥のゝ まさまさしばつんを
よりるびさまん武九 辰ハいづくへお新おさて
武九 拾者俗なきのおやよりて何の際 助と申
妓をりゝ めまゝ 一寸る上 清白のおやさの
のゝ あざ先のゝざる 俗振がおまゝ 拾さも
ちハ先 酒よりぞゝ まゝ さ本を襲後いろ
て 俗博物の墨よりあまゝ 武九 ゝんざ見

ちきぐ祢 [illegible] イレニヤ ひんを石とつぼを煮ころ
ぐーよまるさやつくるやつくぐされるりのよ
ま一ゐるるる又勅ようちやられんハ云
ひ敷ゐまるとくさて他へバ九つまへよりう
くるハさとんぐ物くハられ[illegible]の[illegible]るり
といひ祖といひひをよくまる世界ハイヤモウ
一ト口をくへ絵へでひんおのがかくさ[illegible]て夜の

世ゐやトのろまかせれるかまろくこし身をなも
まぐ所るくぐ敷まぐさよせんその大くぶさを
ぐつとまくあくあぐくぐ[illegible]ぐつと解
くかぐくぐーかいろうまへまづくぐ心ゐくぐ
ゐへ月代さくと髭ていねく梳き入しのぐう
ゐへといふぐ[illegible]るんでも恭縛いきまして
下云ふもむぐ矢ゐ一応いのまぐひ所を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

茶屋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おぜんとは 圖 はよおもしろいぞ
ちんざ 圖 ゑ〜〜〜〜〜〜の 圖 おちへさんがはおるな
そこおつようけやとつとつ むくの者でけい
まへはいとぐいてござりやせ 圖 おいてはさへよ 圖
おもしろいまづちやうとこきや 圖 エイ おめへ
さんざうあどくへいおるちんへ 圖 イヤ世話
買もちんとさへぬ そしもおもしろいでも 圖

ちんはうへ 圖 イヤソレデモ まづ さの事は知めへれと
ゑるとさはへうさへ 美 とこしてるぐお 圖 いやでお
ざんとよ 圖 さいやであらよとやァ さ乃
まを さへ極へうぐ 圖 こ 霜尾子ちんまり
つうへあをいとうさへふおしぐよとつぐで
そうてゆるぐへ 圖 おめへさん今時の娘まや
そんる所 支ハ ぐり やちんモウけいそんざ

源の文おもとが 元 ゐんのこうてもんかぐやふ
元 ハテナ 池の ゆうん ぬこうてのけ 亭 元 亭 元 元ハ
いうつきやいまゝ 豪 ホウ 亭 元 亭 元 亭 元 亭 元
要 ようい 亭 ホニ 亭 元 亭 元 亭 元 亭 元
おもこさりらあや 元 いやくいを 亭 ト云
こゝろ何ともねへ 亭 大こ小図ゐ川 元
ゑんゐんハを ゐハ ゐ角でゐさりまして
ちゞ 亭 時 面 さんゐでハお宿て大ていお 亭 ゐ
やこよう 元 イヤモウ正 川も けゐハさへぬよ 豪 元
く夏のこつこ けゐ を 安 サアまづ一つよりませ
り何げゐさへ 亭 サアよりまし 豪 元ハ法
地元 元 ゐ ゐ ゐ ゐ ゐ ゐ ゐ ゐ ゐ ゐ ゐ ゐ
元 豪 ちり 亭 ハイこれハまげゐよ 亭 ゐ
ゐ豪へゐ 亭 元 亭 元 亭 元 亭 元 亭 元
ゐ豪へ 亭 元 亭 元 亭 元 亭 元 亭 元

のつづけ腹ぐすの稽古でゆざります、[面]そ
ゝへ希代の妙薬[亭]そゝ[ッ]くこうれでハまゝ二
ぢ[ッ]れます、[寿]そんあ[ッ]を一ツ飲つゝ
[亭]さても両よ旨ひものけやゝ[ッ]みゆ[ッ]ハい
ゝ[ッ]ゝ[ッ]ぐ[ッ]ゝきます、[元]イヤこいつハ中ゞ良く
[寿]ワヽ[ッ]ゝ長公ゝ[ッ]ちゝさゝ[ッ]ふ[ッ][居]ゆ[ッ]ぐ[ッ]ふゆざり
ます、ゆ[ッ]ゝ[ッ]ゝ[ッ]ゝ

ゆうさがおろうるん[五]ハテこまつてさめんぎ
イヤうつちがいうざの沒るめへいつて川えて来
ゆふ[女]まさいうとうまるうるんちよう[四]
何ずそうアぬうら極へ例の弁口て敬巴を
又内義さんも国ぎうまーこアいつてきやせう
[五]ハテ高へきうぶ[五]そうてちうんハ[四]
城さ[五]イヒヤ何いつハかめんぎ[四]さうおつ高
むるいうちやいまーあくゆるるロ十ぎう
ちとうと[五]りりやア雅波さんの角ガナルちかも
うへゆん[五]イヤりう何ぎさ[女]おめへさんも情あ
しぎそさゆうるう朱坂ら吉おをすてごきへ
[五]やうこまるまるさ[五]朱坂いおさう
ちやまるまるさんハ織井自さうさんハ
どうでこざうやちよう[五]ちうろう[五]さうや

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

二階

[illegible] アイ [illegible] 二階へ [illegible] 人 [illegible]
[illegible] この衣紋坂右ゝたゝイヤまづらへて
[illegible] [illegible] 伽ぢんこうばぐ [illegible]

[illegible]
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [

そこまつさそこの屋敷そこの外いろ〳〵三人の
あそこ者例〳〵海さうつきをか　図コレ
ゆきあか
雪姫でも厚西でも弟を一ツりつてらい　図ヤヤ
えんき
〳〵〳〵ねく　図まりすめめくあきれませ
えんの門　図えきさんいらしさつきつい雲海
ばかり
ざる　図いつれもいうぬと　図主て春財あるめ
ひと
更〳〵すると〳〵だよと　きよぜん公あんそちつと
くるりのをりいたこうんかをのハ皆〳〵会
ふい　ひく

へ通への　図〳〵こまりゆ〳〵さいでき〳〵る　図伝
〳〵ん〳〵ぐうの〳〵と者れを　図ねげん主〳〵る　図
まづ〳〵　図主のつちと〳〵いと主主主主主〳〵ん　図これハどぐ〳〵きつい
ゆんぐ初人ゆとハいめ　よりあ〳〵人よりとぐ〳〵ぐ
つと深〳〵〳〵　呑ハ門蔵宮ゆ〳〵　図イ〜エ
〳〵ぐんせん　図ナニ　ぬ〳〵ちの角のうぐ〳〵　図
アイ〳〵ぐるとさハ〳〵ぐ　図人を　図〳〵〳〵おきい

かまつるのさ〳〵さ〳〵しちやアこねへと云
とよやこゝのむ 絵 小まつさん
又さんがきるめんをとつく玉川屋までまい
るんしさが井坂へいきるんしゝき 表 ゆん
まり又さんもつまりんせんよ 玉 十二月大みそか
のごもつこゝやてくる 裏 ゆきるめんをとこちやア
世ちんねへ 元 ゆきのさるゝ 絵 ゆきるみ
りのでかざんを 裏 コイウハやはりやけるハい 裏 りさし
いがだれでゆやとまるゝ 表 下よ文ゝと云げ
ちを文がおつまん 裏 りレハエゝさんかゆでこい
ゝ 裏 これゝ元有りよ雪尾ゆイヤ雪
ゆ面ゆまつハ市出あれのゆやゝごへ足板玉板
そんゝゝゝゝゝまアつりまを 文 まアつりまん
くゝとゆを釣のゞ 元七 朝とか 表 ゆを
るべを

じやつのくちく 図 うんかくーーーーーーーー 三 よ
迷ふーーーーーーーー 丰 ふべまたそうその内たぬき屋やー
つたやい 文 こいつハいつぞ 無 一間先き浮ゐく
定 どつちの用でく 延 どつちのこつちのーーーーーーーー一ワ
かアねーーーーーーー

まんこの内よハ金龍山の観音殿ゑ
ぐ〻いつ晒
ぶがゆゑ〻りまし〻〻〻

そもやアこれハいかに西で御座さそうおくい
い鎧櫛笥で矢口の後日をそうけ申て低ぐど
つくそんそうと大のくさ 三ゲ そもやアてうどい
西そうざうまうさ矢口の低ハ平木矢間どと
中の低ぐそうまんぐうんざ知恵さうでハ
ざうまん祢 云 ないつハ恵と思へ智恵の買物と
歩行ハるけ申をおらんざのうをきてうあう

いよおとこうらくてもんが勝うそうとうと
一変勝うそうとうてもうくのうぐうぐつと
下つてどんるを命ものないてあ乳をひが稲へ
そんよ弁内でもりへもうくと稲ぬくと稲ハ
そうちよ知るうの 三ゲ ナニカ伊ぬへ西ぬうそうゆ
そでうぐうまうくと 云 ないそけ丸じやアうん
めへりうそうけんよきれば西へ月ぬぐ

しげ
けしよあやへ女くゆきを
行き
伽まで
きてくのぼんとそるの
ろ
根ぞれの
ろ
ぶめく
寿そちでぞうを
みぞとこちでもちつとそうや
きよう
寿いやりそんな
流
ザ長の
ぶ
ん
寿かくたるぐさま
ちげ
ナニいやとへ
寿のくやる
寿
志
年
寿ぞそれでも
夕

きそいひとつて
抱
ぞやはら
ナハむりの
寿そんりら
色月さ
ナハまろねへ
文
ろけ
ろ
ま
ナヤ
板
とりのまねを
志
福へのん
でおざんもよ
寿
志
ろ
ろ
よ
ナニ
む
ぞ
ぞ
ぞ

まん[元]そんそうそで飲つせへとゝゝゝ文公
ゝゝゝハ程へゝ[文]まつござうまゝうと[彩]ゝゝ
みよゝをくひゝんまでそ[文]きれくさうさ先者
ゝゝくそゝ和ゝ四ゝ見で[カ]ゝ[ク]ゝ[ク]ゝ[ト]ゝ[ク][元]
みゝくさゝゝで首ゝくゝゝと[寺]魚ゝゝで本奥
ゝゝたゝ[文]ゝゝざゝくゝゝゝゝゝのゝ[元]まゝく
ゝゝゝゝくゝゝのハゝ痛ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝ[文]アイゝのゝゝゝゝでもゝゝゝゝゝゝゝ[彩]
さゝゝらゝゝ[文]さてゝけゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ坂ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
厚てゝさゝゝ東西ゝゝゝゝゝ史史記のゝ紀ゝ曰
ゝゝの側ゝゝゝゝゝ耕ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
[元]ユイゝハゝゝゝゝゝ[長]ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
[文]ヘイ紀ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ[元]

藤原為ふぢ

[文] さあまつ川 [絵] どう

しく時ます 何ぞ [新] ものの

ぞでおざんせと [歌] いづれも逸歌 [一号] よみ

ざりまつる [夏] さぐしく [春] ちんな

一杯づ [雪] イエ のしよりざりまつる

もしよおいしなこれ又総別へ参りまし

[元] それハ山茶花 [雪] 明和八年 [新] おむらへ

[元] 例別 [一号] さんしんのうさぐんとう [裏]

ミしどもおやまをうる [元] りやそろく

[春] 遊おもをハ [春] りよ三 [春] 藤ぐんぬ りんざ歌ハ

まぐるぬよこテ別ゞ女房たハどけへいつる

[春] 十二月 [新] 所花ゞ長つる [元] 長ぐつけぬ

くさ [新] よ口をきくねんとぐ [元] その名さ

山下ふこ年 [春] 八幡山よ口年 [新] さくしんく

やと 長 ナア むぐをあすておやとるん 長 ナア おいでるんと 二人をむかへに 長 ナア おやとる

るん 長 まぐよりらう 長 るよさうアくハおぢん

せうんと主切傳ゑ引出さと屏風のうちへで

奉内

翠帳紅閨よ抱るべしふとゝの美とう

の八ゝ名も麻耳よ水の沢よハ水

船とあり夕よハやと雨ふるとしてハ

もおぐよもやゝ只一脈の恋ゑ葉花

またまたおでハふゝ 長 りくち

つと起るん ひんまりと麻るんとくまぐう

えんよ 長 イヤくをぐるとハめんぐ 長 えん

ゑゝ月と笑ん ゝあん ナア 湖ゑとのゝるん

ゝ 長 モウいやと 長 ア よくの 長 ゆいさくく

いやもうぎやうけつこうし 圓 そんもういの
きるんさく 圓 三ぐわつよ 圓 いろへ日ゝきあてれ
おるんす 圓 そんもうのちて 圓 志ますつて
ゐいをよ 圓 うゑゑ 圓 そして 猶おいでる
んし 圓 るで 圓 るでゆきそんよきつきも
ゆしうゑ 初今うゝとんざやつぐしちさげ
をともるんちよゝうゑ 圓 川井の 圓

おけをつゝい勤のそのゆゝ 圓 ぬしのゆゝ
きゆゝんよハ勤のゆゝもりや志のをぬよこ
来るぐおうゆるんす おらんるんすと
しゝ 圓 ゆゝいちんがぬしよちつとおや
うゝいしてうとうつ 圓 て 紙るゝ柔よ決
ちちぐ 圓 るんのゝでおざんを人よぐうゝ
そりゆのせシテ きるんをとハいやうゝ 圓 いやでハ

紙へ 図 きりやさるみんきと 図 とれがこねへぐ
いうとうとうい 図 ねつうとうれうい 祢そん
みよ茶ぢういてみん 一 きり 勅のうさ
分みれバさざめてきうみいづぐらうと奥の
みんきも 知 じや おざんせんぐうぐび
みんきもとうよういを勅の分はひらうとう
きぐういるを きいーさ ぬうさいよおん

おうはれまでとうとけハきいをねて更
つうみんをなぐもおそぐうい 図 サアもんじ
くみてきさ リニテ ねがさぐうい 図 ニテよく
持てもうみ 一 秒今 ひうはれもみいを
ドいて 祝 よさくうきとうとうんおいそ
てきのうくでうんぐとうさうぐいやぐとてそ
きやねんまりでいさぐん きのういやみういと

飯炊でいのんーいやともあらしもて来
うんーゆてうしもてり有志の志を春ちよく
らうもさよ茶よもせよおれがまのいのんーハ
まんぎーぐ喰しもりられぞーうつぐけ
ゐい園きうれいと抱てたがいよ志めつ
志めーうつ命もり多のつびきゐれぬ
思ひ胴ハ縁よし紙るの妹茶山中を流て
下立第抱ゐるを志ゐるハさーといとほ
岩そーの赤の繋ハいはうーぐと表壁の松
の材所面詩ゐそ冬の赤ハ胴ぐちら
ゐやゐぬーん

きぬ

寒国ゐ猫ゐて婦ゐとハこれゐ人めと
独ぐーやけを起ーまーとこケゐぬ

よりくくらくとこしらへて人もあるくい
ねんとまれとれよみれば烟草ばこ
うたるくどうちをきいてもごくちの舞
ぎかく形式廉下は吳音ひれどらぶ傾
あくまでとるの賺言すきくしと都言
ぶれと廉くまもせばらくいやくとる
ちょうちんのうくは廉くを起うをたくい
てもないもいとべらぶ所をして大通と
胸よあまんの家隆寺は横ぐつくあるこん
くれさくぶもてくを表ありけりさそ
あるけりけるく
ほのて表ばとおきうせく
おくぶ紙ふどハそくやくくまくくんのの
ちくて八テナ新宿もりくさくぬさくまづ

恵孫がいけどんざくべざ 図 そういうものらいやや
つる殿川の麓をまくらて案内ありしよ人の
十五人のめらせー 元 ここあ吉原ありまとんと
孫べ長ざざいくべで 鷺の泥鰌 元 ここあ
るそつさで廓トかやあるそくも
おるつーてびんちゃんちゃあるちん孫
子の代までも書云ましてくさしあじゃ

孫べ 図 ゆ 違ハ何をおうるとくべ 元 ちんでも
ねがそ抜ハちんざ ちりーろい抜びをこゆ
図 それハまーおざんまくさしゃ横ぐおこて
りてゆくちゃおりまのゆちんちん 元 を
ておくの横ゆーこ三年もこてくるね 形更ちの事
織 ちんちんまハくゆーおこんをこあちつと
おゆくちゃ 元 お志ハ何ちくいお志を書

ちるじやア延かけるとまいつてゆとと
やせう 画 ひんなうんかうよくちるめんざ 絵の
のこつておざんとてアおいでるんん 云 よつてく
れへくと ゆも祝へ ふにめへざつてアうとくつて
むゆくそさ 画 ひんまうーむざ 祝 云 ゆちろん
のとこれくいアいてくるをのとこうおひのざ
まのこらへきてまくこれうゆとんちき

ぎやア延へらでいふハるの耳を混ぜ雨
ぐひくこうおりんさぐ後ぎのこめさちこア
まてちくぐろへ 画 七まこやりふハむぐこハるどん
てへ通ゆりめと物をいよまぐを三祝へこう
かつるかぐつてゆつけうの祝へのざ 云 そのくを
きへつアとりれど三つ面へ三百陽ゆとう
けてもそぐまるめへ 画 ちーこらでこそた

くさんきうよう（なんきう）の方へでもくすりを
とらせてくれるぐらいちゃァ御（さ）るぜく
（番）水（ろで）ばかりやアゑめへらつてアのさ物をして
おくるる御（ごけん）みろうてもまづけんどくハ（元）
わんよけ酒へきていろくるぜげおをるぜ
（番）コリてアアくろうよけへどうをさせてけめ御
大と一ぱるあるへうとりのよりうらちやら

らぞ（元）イヤとてもそらでハ（ひざと）ちとりかけ
まうぜやけしぶらまちづらいさそ（のりて）
ちこうてゆうまるよ（けあまりの）（番）仙ぜんゑ公うか
そろくく長屋ハ支度ハ（番）ゆうよう仙
ぜへ中を（番）そんあるうるぜ（ぜ）待（ま）つてよ
（番）アイけ万よ（番）どうさもおちうへうちよ（番）ハ
正月の十ヨ中ま所ゆうきんぎ帯て又おせうよ

あや志のうとかうしてゼ谷中ふ後い日ハかし

とぐらに隠るもぞ(くそ)くしうちのくるるもこそ

くく　月前(つきまえ)馬吼(うそふ)くうすあさ

鐘の音(ゴヱ)

吼(うそふ)くうくうて天龍寺乃